

モモ生産者は「秋季防除」を必ず3回実施して、せん孔細菌病を徹底防除しましょう！

1 気象概況

8月は晴れの日が多く、日照時間は平年比120%で、降水量は平年比58%でした(アメダス・若松)。平年に比べ8月中下旬の気温が高く、残暑が厳しい夏になりました。

東北地方の1ヶ月予報(仙台管区气象台9/10発表)によれば、東北日本海側では9月中旬～10月上旬の気温は50%の確率で平年よりも高くなる見込みで、暑い日が多くなりそうです。

2 果樹の生育概況

リンゴの果実肥大は概ね平年並みですが、摘果作業の遅れた園地では平年よりも果実がやや小さいです。カキの果実肥大は、平年よりもやや大きく推移しています。(表1)

表1 各樹種の果実肥大状況(9月1日調査、暦日比較、平年は1986～2019年の平均)

樹種 品種	リンゴ								カキ	
	ふじ				つがる				会津身不知	
	会津若松市 北会津町		磐梯町		会津若松市 北会津町		磐梯町		会津若松市 門田町	
調査地点	縦経	横経	縦経	横経	縦経	横経	縦経	横経	縦径	横径
果実経(mm)	72.9	80.7	58.3	66.4	72.5	82.5	77.3	80.7	35.0	48.3
平年比(%)	108	107	87	90	97	99	101	96	119	113

3 リンゴ「つがる」の収穫果概況

会津若松市北会津町のリンゴ「つがる」は9月上旬頃から収穫期に入りました。気温の高い日が続いたため着色の遅れが見られ、収穫は平年よりも遅れました。

なお、会津農林事務所で行った「つがる」の収穫果調査(表2)における平均糖度は13.1度で、「つがる」の目標糖度12度を満たしていました。

表2 会津農林事務所における収穫果調査結果(北会津町、9月9日実施)

	平均果重	縦径(mm)	横径(mm)	平均硬度(lbs.)	平均糖度(%)
今年度調査結果	219g	71.3	81.5	14.0	13.1
平年値(H26～R元)	238g	72.1	82.8	13.3	12.5

4 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア ハダニ類防除

高温乾燥が続いているため、ハダニ類が多発している園地が散見されています。必ず園地ではルーペを持ち歩き、葉をこまめに確認しましょう。また、発生を確認したら防除暦を参考に速やかな防除を実施しましょう。

イ 野そ（ネズミ）駆除

9月は野そ駆除の適期です。野その繁殖期は春と秋の年2回で、繁殖期の直前にあたる3月と9月に駆除を行うと効果的な防除ができます。野そ被害が多発している場合、殺そ剤（表3）等を用いて駆除を行いましょう。なお、年1回の駆除では効果が現れにくいことがありますので、必ず春と秋の年2回実施しましょう。

表3 主な殺そ剤

使用薬剤名	使用量	使用方法
ラテミンリン化亜鉛1%	300~600g/ha	1~2g（10~20粒）をそのまま、 或いは小袋詰をそ穴に投入する。
メリーネコリン化亜鉛	1カ所あたり1~5g	そ穴1カ所あたり1~5gをその まま又は紙袋として投入する。
Z・P 1.00	50~200g/10a	3~5g紙包み又はそのままそ 穴に投入するか、10aあたり10~ 40カ所に適宜配置する。

ウ 台風・強風対策

9~10月は例年、台風が多く襲来します。被害が予想される際は以下の事前対策をとりましょう。

- 事前収穫：収穫期を迎えた果樹では、強風による落果や傷害を防ぐため、事前に収穫します。ただし、使用農薬の収穫前日数等は遵守してください。
- 立木の主枝：大枝は裂けるおそれがあるので、支柱で支え、枝受け部分を結束し、脱落しないようにします。
- 立木の側枝：支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等を外して、風になびくようにします。
- 防風ネット：設置している場合は、風で飛ばされないように補強します。

(2) リンゴ

ア 収穫前管理

赤色系のリンゴでは、商品価値の高い果実にするため、着色管理を実施します。果面の30%程度が着色したら、果実に密着している葉を2~3枚摘み取り、地面には反射シートを敷いてむら無く着色させることで、真っ赤に色づいた果実となります。

なお、今年は気温の高い日が続いたため、日焼け果が多く発生しています。今後、気温の高い日が続く場合は、これ以上発生を助長しないよう、摘葉は果実に直接触れ

ている葉を中心に軽く行い、その後は気温の状況に応じて程度を強めて実施しましょう。

イ 病害虫防除

一部園地でハダニ類が多発しています。8月に高温乾燥条件が続いていたため、一気に個体数が増加したとみられます。薬剤防除の基準は「葉にハダニ類が1匹以上確認されること」です。必ず園地ではルーペを持ち歩き、葉をこまめに確認しましょう。また、発生を確認したら防除暦を参考に速やかな防除を実施しましょう。

また、一部の園地でシンクイムシ類による果実の被害が確認されました。今年、多発した園地では、来年も多発する恐れがあります。来年度の防除を強化する必要がありますので、必要に応じて会津農林事務所果樹担当まで御相談ください。



写真：モモシンクイガ（出典：福島県農業総合センター果樹研究所）

(3) カキ

ア 着色管理

収穫前30日（9月20～25日頃）を目安に反射シートを樹冠下に設置し、着色向上を図りましょう。

イ 新梢管理

9月下旬頃までに、骨格枝背面の強い徒長枝等を中心に新梢管理を実施しますが、来年の結果母枝として利用できそうな新梢は残しましょう。

ただし、日焼け果の発生が見られる場合は、果実に直射日光が当たりすぎないように、徒長枝を多めに残すなど、加減して実施します。

(4) モモ

ア 秋肥

収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めます。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用います（参考：「あかつき」は中肥沃土地帯で7kg/10a）。

イ 秋期せん定

樹勢が強く徒長枝の発生が多い樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）を目途に収

穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋期防除における薬液透過の改善を図ります。

ただし、弱勢樹では、秋季せん定を実施しないか、実施しても最小限とし、葉芽の多い長果枝が多く残るようにします。

ウ セン孔細菌病の秋季防除

多くの園地で**せん孔細菌病**の罹病葉が確認されています。被害枝・葉・果実は見つけ次第除去して適切に処分してください。

また、せん孔細菌病には秋季防除の実施が効果的です。秋季防除は、9月10日頃から10日間隔で計3回実施する必要があります。会津地方主要果樹病虫害防除暦を参考に、必ず実施しましょう。

5 9～10月は「秋の農作業安全運動」重点推進月間です

全国の農作業死亡事故者数は年間300人前後で推移しており、事故件数を減らすことが重要な課題です。このため、秋作業が行われる9～10月を重点期間として、「秋の農作業安全運動」が実施されています。

重点推進テーマは「見直そう！農業機械作業の安全対策」です。機械作業は、ちょっとした油断が命取りです。使用前に必ず点検・整備を行うようにし、1人での作業は行わないようにしましょう。

